

## 上海市の一児童福祉施設における口腔衛生状況

江草正彦<sup>1,2)</sup> 西嶋克巳<sup>1,2)</sup>

岡山大学歯学部附属病院 総合診療室 (室長: 西嶋克巳教授)<sup>1)</sup>

岡山大学歯学部 口腔外科学第1講座 (主任: 西嶋克巳教授)<sup>2)</sup>

(平成6年10月19日受理)

## Oral Hygiene Condition in the Child Welfare Institute in Shanghai City

Masahiko EGUSA<sup>1,2)</sup> and Katsumi NISHIJIMA<sup>1,2)</sup>

*Clinic for Handicapped Patients and Systemic Diseases*

*Okayama University Dental Hospital<sup>1)</sup>*

*(Chief: Prof. Katsumi NISHIJIMA)*

*Department of Oral and Maxillofacial Surgery 1*

*Okayama University Dental School<sup>2)</sup>*

*(Chief: Prof. Katsumi NISHIJIMA)*

*(Accepted Oct. 19, 1994)*

**Key words :** oral hygiene condition, child welfare institute

上海市の経済発展は開放政策により目を見張るものがあるが、同時に保健・福祉の面でもそれぞれに関係する制度の系統的な整備、サービス内容の向上に力を尽くしているように思える。

上海市児童福利院は1981年に開設された主として障害児を入所させ療育にあたる医療福祉施設であるが、外来を通じて地域医療活動をも実施している。上海市児童福利院の施設、設備および療育水準は高く、中国全土の障害児療育活動の中心的な位置をしめしている。今回われわれは、上海市児童福利院の口腔衛生状況を調査することができたので報告する。

### 調査の対象

上海市児童福利院は0歳～14歳までの650人の障害児を受け入れ、330人の職員により療育されている。医療は専任の約50人の医師、看護婦を

中心に実施されているが、歯科医は専任ではなく、1年1回程度の検診がおこなわれている。

調査は1994年3月1日におこない、その対象は無作為に抽出した2歳～14歳の知的障害児21名(男児10人、女児11人)であった。

平均年齢は男児6.8歳、女児9.0歳で、全対象の平均年齢は7.86歳である。また調査対象のうち11名は知的障害のみで障害の程度は中度であり、10名は軽度の脳性麻痺であった。

口腔診査項目は齲蝕罹患状態、歯口清掃状態、歯肉炎罹患状態とした。齲蝕罹患状態については、永久歯についてはDMFを、乳歯についてはdefを用い評価した。歯口清掃状態についてはGreene & VermillionのOHI-Sを用い、対象歯の存在する患者について調査した。歯肉炎の指標としてはSchour & Massler(前歯部法)を用い、上下顎前歯部の存在する患者について

表 1-1 1人平均 DMF 歯数

	上 海	日 本
1人平均 D 歯数	0.08 (本)	0.91 (本)
1人平均 M 歯数	0.15 (本)	0 (本)
1人平均 F 歯数	0 (本)	2.52 (本)
1人平均 DMF 歯数	1.47 (本)	3.43 (本)

表 1-2 1人平均 def 歯数

	上 海	日 本
1人平均 d 歯数	0.77 (本)	4.35 (本)
1人平均 e 歯数	0.62 (本)	0 (本)
1人平均 f 歯数	0.77 (本)	3.35 (本)
1人平均 def 歯数	2.15 (本)	7.70 (本)

表 2-1 ADL の調査

	食事の摂取方法
自 立	13名 (61.9%)
半 介 助	0名
全 介 助	8名 (38.1%)

表 2-2 ADL の調査

	整 容
自 立	13名 (61.9%)
半 介 助	0名
全 介 助	8名 (38.1%)

表 2-3 ADL の調査

	移 動
歩 行 可	14名 (66.7%)
杖 歩 行	0名
車椅子自立	0名
車椅子介助	0名
ストレッチャー	7名 (33.3%)

評価した。

一方、患者の障害および ADL に関する調査を実施した。調査項目は食事摂取方法、食事の形態、整容（洗面、歯磨き）、移動とした。

### 調査結果および考察

#### 1. 口腔診査項目

1) 齲蝕罹患状態は、一人平均 D 歯数0.08本、一人平均 M 歯数0.15本、一人平均 F 歯数 0 本、DMF 歯数は1.47本であった。この診査の対象平均年齢は9.76歳であった。DMF 歯数は昭和62年実施の歯科疾患実態調査<sup>1)</sup>では10歳では3.43、D 歯数0.01、M 歯数 0、F 歯数2.52であった(表 1-1)。これより上海の児童の齲蝕罹患状態は同年代の日本の健常児に比べて良好であった。また def においては、一人平均 d 歯数0.77本、

一人平均 e 歯数0.62本、一人平均 f 歯数0.77本、一人平均 def 歯数は2.15本であった。この対象平均年齢は5.9歳であった。昭和62年実施の歯科疾患実態調査では6歳で一人平均 d 歯数4.35本、一人平均 f 歯数3.35本、一人平均 def 歯数は7.70本となっている(表 1-2)。したがって、ここにおいても上海の児童の齲蝕罹患状態は同年代の日本の健常児に比べても良好であったといえる。

2) 歯肉炎罹患状況を21名について調査し、PMA 指数12.35であった。

3) 歯口清掃状況は DI-S (1.317)、CI-S (1.165)、OHI-S (2.48)であった。

2. 口腔衛生と関係のある ADL は食事の介助、食事の形態・整容・移動について調査した。

1) 食事摂取方法は全介助 8名(38.1%)、半介助 0名、自立13名(61.9%)であった。食事の形態については普通食100%であった(表 2-1)。

2) 整容については全介助 8名(38.1%)、半介助 0名、自立13名(61.9%)であった(表 2-2)。

3) 移動について、歩行可能が14名(66.7%)、ストレッチャー移動が7名(33.3%)であった(表 2-3)。

3. 次に ADL と DMF, def, PMA, OHI-S との関連性について調べてみた。

1) 食事の介助別との関連は、DMF では自立群

表 3-1 食事の介助別と DMF, def, PMA, OHI-S との関連

	DMF	def
自立	0.25 (本)	0.4 (本)
全介助	0 (本)	3.25 (本)

表 3-2 食事の介助別と DMF, def, PMA, OHI-S との関連

	PMA	OHI-S
自立	15.31	2.77
全介助	7.14	1.48

表 4-1 整容と DMF, def, PMA, OHI-S との関連

	DMF	def
自立	0.25 (本)	0.4 (本)
全介助	0 (本)	3.25 (本)

表 4-2 整容と DMF, def, PMA, OHI-S との関連

	PMA	OHI-S
自立	15.31	2.77
全介助	7.14	1.48

表 5 移動と DMF, def, PMA, OHI-S との関連

	DMF	def	PMA	OHI-S
歩行可	0.25	0.4	14.36	2.72
ストレッチャー	0	3.43	8	1.39

が高く def では全介助群が高かった(表 3-1)。PMA, OHI-S と同様に自立群が高い傾向を示した(表 3-2)。

2) 整容との関連は、食事の介助群と同様に DMF では自立群が def では全介助群が高く、PMA, OHI-S と同様に自立群が高い傾向を示した(表 4)。

3) 移動との関連は、DMF では歩行可能群が、def ではストレッチャー移動群が高く、PMA, OHI-S でも歩行可能群が高い傾向を示した(表 5)。

## 結 語

わが国においては、口腔衛生について医療福祉の関係者に注目されてきているが、中国においても近年、学童の齲蝕について疫学的調査<sup>2,3,4)</sup>が実施されている。それらの論文では中華人民共和国建国前とその後の時系列的比較、年齢別、性別比較、居住地別比較、飲料水とフッ素含有量との関係、ADL との関係について述べている。しかし障害児については歯科領域の調査成績は少ないようである。今回のわれわれの調査では、上海市の児童福祉施設における障害児の口腔衛生状態は比較的良好であった。今後は上海市においても多数例の調査の実施とともに、障害児の歯科所見と深く関係すると思われる障害児の発生病理や神経学的所見との関連について調査を進めたい。

## 文 献

- 1) 宮武光吉, 石井拓男, 他 (1993) 1993版歯科衛生の動向. 医歯薬出版, pp164-165.
- 2) 岳 松齡 (1980) 中国人患齲状況の初步分析. 中華口腔科雑誌, 15 (1), 1-4.
- 3) 謝 平, 黄云, 他 (1987) 南通市4241名中小學生齲病的流行病学調査. 中華口腔医学雑誌, 22 (6), 354-356.
- 4) 上海市, 四川省防齲塗料協力合作組 (1980) 上海市18083名児童と学生の齲蝕発生状況調査. 中華口腔科雑誌, 15 (2), 95-97.